

由利本荘市立尾崎小学校 学校だより



おざきっ子

令和4年度 第2号

令和4年4月15日

発行 校長

入学おめでとう！ 98人の新「おざきっ子」

4月7日（木）、暖かい春の日差しのもと、98人（男子40人、女子58人）の「おざきっ子」を迎え、令和4年度の入学式を行うことができました。式では、担任から一人一人自分の名前を呼ばれ、元気よく、ハキハキと返事をすることができました。お話を聞く態度も立派で、しっかりとお礼を返すこともできておりました。また、式に参加した6年生も素晴らしい校歌で新入生の新たなスタートをお祝いしてくれました。



（緊張した面持ちで入場する新入生）



（校歌を披露する6年生）

早速、8日（金）から勉強が始まりました。朝は、6年生の読み聞かせです。上手な読み聞かせに、1年生は釘付けでした。また、13日（水）からは給食も始まり、徐々に学校生活に慣れてきております。保護者の皆様には、登下校の見守りや教材等の準備など、たくさんのご支援をいただいております。本当にありがとうございました。



（6年生による読み聞かせ）



（お絵かきの時間）



（初めての給食）

あいさついっぱい学校に！

毎朝、計画委員が玄関前に立って、あいさつ運動を行っています。計画委員のさわやかなあいさつに、登校してきた子どもたちもとても元気なあいさつを返してくれます。本校では、今年1年、児童会の計画委員会が率先してあいさつ運動を行うことにしております。あいさつは、心と心の通い合いです。あいさつの輪が学校中に広がって、あいさついっぱいの学校になり、心優しい子どもたちに育ってくれることを願っております。これからも、家庭や地域でもあいさつを広げていきませんか。





新任の教職員からひとこと！（パート1）

○校長 菊地 ＊ ＊

やはり、子どもたちの声が響き渡る職場は、いいですね。4年ぶりに教育現場に戻ってきました。子どもたちのやる気を引き出すことができるよう努力していきますので、ご協力をお願いいたします。

○教頭 加賀 ＊ ＊

居住区は赤沼です。娘は、15年ほど前に尾崎小学校を卒業しました。尾崎小学校の子どもたちは、私にとっては大事な地域の子どもたちでもあります。子どもたちの健やかな成長のため、微力ではありますが尽力して参ります。どうかよろしくをお願いいたします。

○養護教諭 遠藤 ＊ ＊

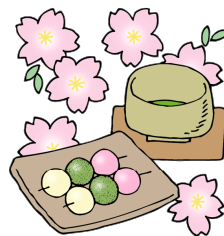
長く続くコロナ禍で、がまんや制限の多い日々ですが、その中でも、子どもたちが安心して、楽しく、元気に過ごすことができるよう保健室から見守っていきたくと思います。よろしくをお願いいたします。

○教務主任 佐藤 ＊ ＊

連続テレビ小説「カムカムエヴリバディ」を毎日見ております。主人公は「小豆」に寄り添っておいしい回転焼きを作っております。私も「子どもたち」に寄り添って学校生活を送りたいと考えております。よろしくをお願いいたします。

○杉3組担任 打矢 ＊

人と人との出会いは、あいさつから。そして、一日の始まりも、あいさつから。おぎきっ子のみなさんと爽やかなあいさつを交わしながら、楽しい学校生活を送りたいと思っています。どうぞよろしくお願ひします。



○1年竹組担任 佐藤 ＊

中学校から小学校への異動ということもあり、慣れない中でいろいろ戸惑うことがあると思いますが、いち早く親しめるように取り組んで参りますので、どうかよろしくお願ひします。

○2年梅組担任 富山 ＊ ＊

元気いっぱいのおぎきっ子。2度目の赴任となりますが、さわやかなあいさつと輝く笑顔は、実にパワーアップしているように感じられます。尾崎小学校で過ごすこれからの毎日が、とても楽しみです。どうぞよろしくお願ひいたします。

○3年松組担任 斎藤 ＊ ＊

今年度からお世話になります。尾崎小学校の子どもたちと生活できることを楽しみにして参りました。子どもたちと一緒に挑戦し、成長できるよう、精一杯、努めて参ります。よろしくお願ひいたします。

○3年梅組担任 三浦 ＊ ＊

一度は経験してみたかった学校に来ることができてうれしく思います。早く学校に慣れて、持ち味を發揮したいと思っています。学区内に住んでおりますので、プライベートでもお会いするかもしれません。その時はお気軽にお声がけください。どうぞよろしくお願ひいたします。

○5年梅組担任 佐藤 ＊ ＊

新入学の1年生と同じで、私もワクワク、ドキドキしています。尾崎小のよいところをたくさん見つけるのが楽しみです。よろしくお願ひします。

「待ち」の姿勢を…

子どもたちとコミュニケーションをとる際、最近、あまり自分から話さないよう心がけています。例えば、困っている子どもを見かけたときなどは、当然、「どうしたの？」という声かけはしますが、その後は、子どもが話し出すまで、極力「待つ」ということを大事にしています。そんなとき、子どもは自分なりの表現で、意思を伝えてくれます。これも自立への第一歩と考え、沈黙に耐えております。

ところで、「傾聴」などの熟語に使われている「聴」という漢字を分解すると、「大きな耳と十四の心」になります。この漢字のごとく、人の話を聞く際は、耳と心で聴きたいものです。

※残りの方々のコメントは、次号で紹介させていただきます。